生活情報サービスシステム

経済が正しい発展をし国民生活が安定向上するためには，国民，政府，企業間に正しい情報の提供が行なわれ，それに基づいた豊かな消費生活や未来設計が進められねばならない。

「国民生活センター」は常に生活に関する新しい情報を蓄積し，これを分析してその動向を把握するとともに，いつでも情報の検索を行ない迅速な提供に応ずることを業務としており，この体制確立のため，HITAC 8350を主機とした生活情報サービスのシステム化を行ない，以後，その内容の拡充と円滑な運営を進めている。

生活情報サービス システムには，その内容や利用目的に従い種々のものがある。

現在稼動中のものは，生活相談事例検索システム，短期家計診断システムであり，更に本年度には栄養診断システムも始められる。

生活相談事例検索システムは，種々の生活相談のうちでも特に頻度の高い商品に対する消費者の苦情，相談について処理した事例をファイルに保存し，必要に応じて検索サービスするもので，その特長は，論理演算子（AND, OR, NOT）を利用して簡単な質問から複雑な質問まで利用者の要求にあった検索が行なえること，ディスプレイ装置を利用して会話形式に検索が行なえること，検索キーワードには日常生活に密着したワードを選んであるので初心者にも自由に検索が利用できるなどである。昭和49年6月現在で相談事例件数約2万件であり，検索の回答までに要する時間は5～60秒位いである。

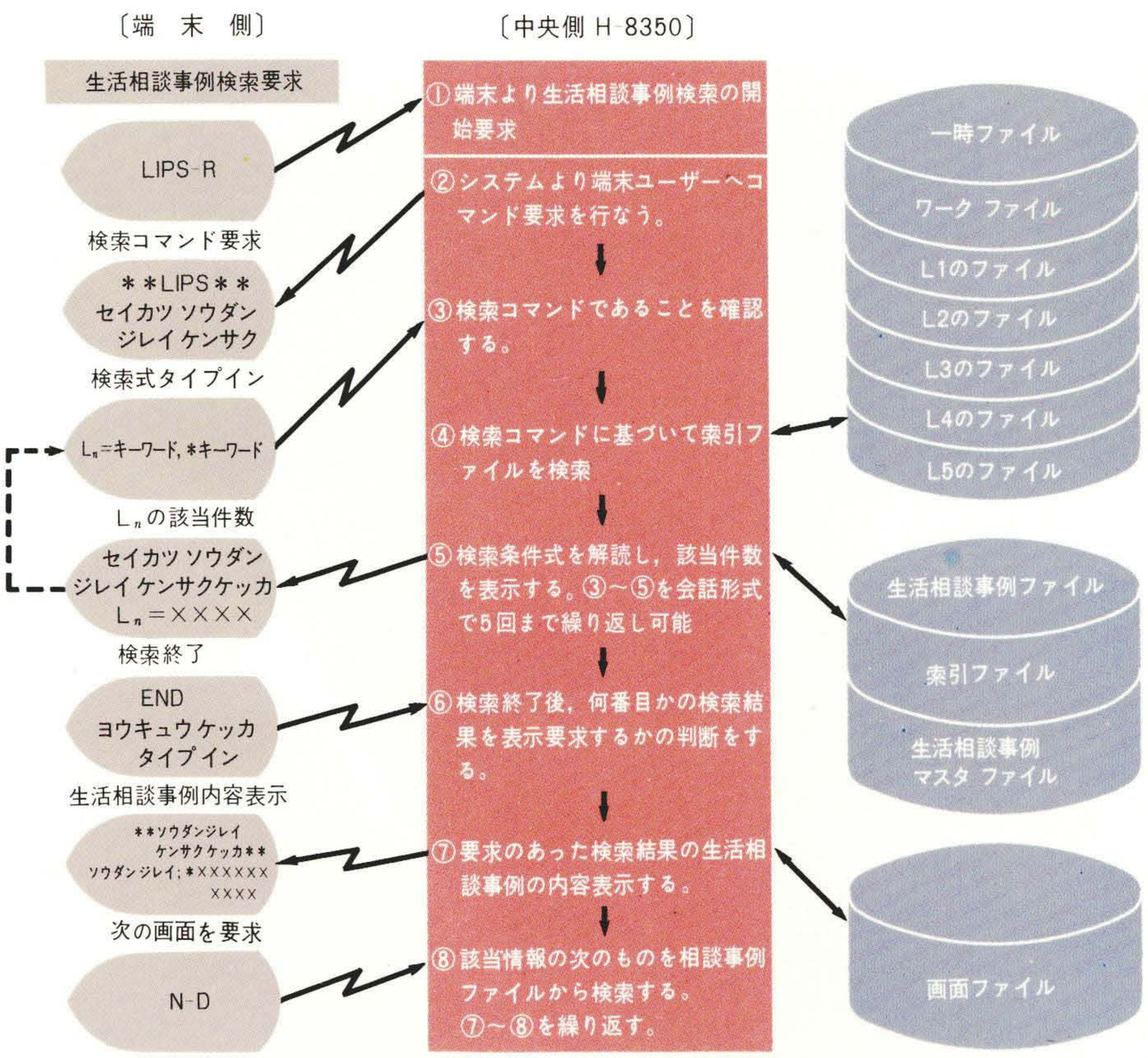
短期家計診断システムは，職業，家族構成，所得及び地域性を考慮し900分類されている家計モデル中から，相談者に対し最も近似したモデルを抽出し，それにより家計を診断する。特にこのシステムでは，物価上昇率を13費目についていつでも最新のデータが入るよう考慮している。現在までの利用件数は約600件である。

栄養診断システムは，利用者の年令，身長，体重，労働軽重度，食事などからその1日当たりの必要カロリー，栄養素について，食品成分表（約600品目）を参照して計算を行ない，適切な指示を与える。

本システムの利用には，端末の補助コンソール ディスプレイを使い，会話形式で検索でき極めて使いやすいのが特色である。

これら生活情報サービスシステムは，国民生活に密着して日常生活上の判断材料を提供するとともに，全国各地の消費生活センターに情報を速報し，有効適切な消費者保護を図っている。また，情報の集中化により各地での調査，テストなどの重複化を防ぎ，更に消費者の悩みや苦情を統計処理して，官庁や企業に貴重なデータを提供している。

今後，システムの拡充とともに「国民生活センター」を中心に全国200の消費生活センターとオンライン ネットワークで直結した場合，より充実した生活情報トータル システムができるものと期待されている。



生活相談事例の検索手順